

2021 年度スローガン

「岩手同友会 30 年の運動の歩みを胸に、この地に人を育む大地を創造しよう」
～今こそ“人を生かす経営”の総合実践で小さな一流企業をめざそう！～



よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

第31期定時総会開催

「岩手同友会30年の運動の歩みを胸に、
この地に人を育む大地を創造しよう」

「今こそ、人を生かす経営」の総合実践で
小さな一流企業をめざそう！」

岩手同友会の第31回定時総
会が5月25日（火曜日）、ア
トホテル盛岡で開催されまし
た。会場での直接参加とオン
ラインでのハイブリット方式
での開催となりましたが、会
場32名、オンライン参加のべ
55名と総勢87名での総会開催
となりました。

来賓挨拶に立っていただい
た、岩手県商工労働観光部経
営支援課総括課長の阿部博氏
からは、岩手同友会が今年創
立30周年を迎えるにあたり、
経営指針の成文化と実践への
特長的な取り組みや中小企業
憲章の普及、県の中小企業振
興計画への関わりなど、「こ
れまで岩
手同友会
が県内で
重ねてき
たきめ細
やかな活



総括課長 阿部 博氏

動に注目してきた」とのお話
を戴きました。

また阿部氏は東日本大震災
時に、県のグループ補助金申
請の現場担当として当時昼夜
なくご奮闘いただいたことも
あり、節目としての10年を振
り返り、一層想いの込めった
ご祝辞をいただきました。

その後議事の進行に入り、
2020年度の活動報告から
始まりしました。例年、年間約
300回前後の行事が開催さ
れてきましたが、昨年はコロ
ナパンデミックの中で、むし
ろ開催方法が工夫された活発
な活動が展開され、オンライ
ンやハイブリット開催が大幅
に増加。岩手県内だけで50
0回を超える委員会や支部地
区行事が行われました。その
中から特長的な6つの活動が
紹介されました。

コロナ禍で見出した 新たな活動の可能性

経営労働委員長の川村武司
氏からは、一年間の検討を経
て大きくリニューアルした第
15期人を生かす経営・経営指
針実践塾について報告があり
ました。オンラインZoom
の特徴を生かしたグループ補
講は、いつでも場所を選ばず
開催できることから、受講生
も実行委員も互いに本音を出
しやすく、以前の開催方法以
上に大きな効果が出ています。



経営呼来 Japan 石頭 悦氏

に学び合
える委員
会に変化
し始めて
います。
気仙支

部遠野釜石地区会長の桶田陽
子氏からは、農業経営者のた
めの基礎講座・経営指針作成
学習会について報告がありま
した。冬場の農閑期を生かし、
それぞれの決算書を持ち寄り
「数字に強くなろう」と本音
を出し合う例会を続けた結
果、現状の課題なども包み隠
さず話せるようになったこ
と。またそのことで若手の農
業後継者が積極的に動き始め
たことなどに触れ、コロナ禍
の中でも、支部地区での寄り
添いながら関わりを続けるこ
との重要さを提起しました。

同様に盛岡支部長の佐藤康
之氏からは、180名の会員
を9つのグループに分けて行
われた、オンライン小グルー
プ会活動について報告されま
した。小グループでは、これ
まで経営体験報告に立ったこ
とのない方々35名がそれぞれ
のグループ会で報告。WEB
カメラを使つての会社紹介な
ど斬新なショットも多く、新
たな可能性を見せた取り組み
となりました。

部会からは、青年部会と農
業食糧生産部会から報告があ



（機仙北造園）佐藤 康之氏

りました。
青年部会
長の猿子
祐太氏は、
青年部月
例会「ほ

しいの輪」での実践について、
紹介されました。青年部では
例会準備から振り返りまで、
それぞれの経営課題を出し合
い、解決のための徹底した討
論を行う、参加関わり合い型
の学び合いを続けています。
また農業食糧生産部会長の佐
藤守氏からは、オンラインで
初開催された収穫祭につい
て、新たな時代の新たな取り
組みと紹介。委員会、支部地
区、部会それぞれの活動が、パ
ンデミックの中で大きく展開
された様子が報告されました。

地域の期待に応えられる 400名同友会の回復へ

今年度の活動方針案につい
ては、吉田ひさ子代表理事か
ら提案されました。

今期のスローガンには「岩手
同友会30年の運動の歩みを胸
に、この地に人を育む大地を
創造しよう」今こそ、人を生

かす経営の総合実践で小さな流企業をめざそう」を掲げました。以下吉田氏の提案の抜粋を掲載します。

昨年に引き続き、「今こそ小さな一流企業をめざし、一歩ずつ実践を進めよう」とスローガンを掲げました。「小さな一流企業」とは、社員とその家族がより一層幸せを感じられる企業づくりと、その裏付けとなる付加価値、利益を生み出していく幸甚で柔軟な企業づくりを目ざそうというものです。

そして今年度のスローガンのメインには、「岩手同友会



30年の運動の歩みを胸に、この地に人を育む大地を創造しよう」と掲げました。

東日本大震災を迎える以前から、今後起こりうる岩手県内各地の少子高齢、人口減少問題について、同友会大学や各地の例会で繰り返し議論し危機感を持って取り組んで来ました。

私たちは解決の糸口を探りながら、県内全自治体での中小企業振興基本条例制定の実現や、エネルギーシフト(ヴェンデ)の各企業での具現化による、地域の資源と資金の循環をめざしてきました。7年前の2014年、エネルギーシフト(ヴェンデ)研究会の創立時に掲げた目標は、「2050年の岩手の温室効果ガスゼロとエネルギー、食糧の100%域内自給」でした。当時は誰もそんな時代が来ることを予見もしなかったでしょう。

しかしながらコロナパンデミックが世界を覆い、地球環境の急激な悪化が可視化される中で、「このままでは持続可能な地球環境を次世代に残

すことができない」と漸く、足元に目が行くようになりました。それは、まさに私たちがこれまで岩手で30年間、愚直に取り組んで来た「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」をめざす取り組みそのものです。

まさに先行きの見えない困難な状況に直面している今こそ、地域の暮らしと経済の根幹を支える私たち中小企業一社一社に、強靱で柔軟な企業づくりと人を育む大地としての岩手の実現へ向けた期待が向けられているのだと思います。そのためにも今年は400名会員を回復し、地域課題を克服し、共に復興を実現する地域の仲間を広げることを実現したいと存じます。

総会では以上のような提案がされ、全会一致で承認されました。またその後行われた記念講演では、「激動をよき友に」大震災から10年、未来創造へのメッセージをテーマに、なつかしい未来創造株式会社 取締役副社長長町野弘明氏、専務取締役河野通洋氏、取締役服部直子氏にご報告い

ただきました。

地域や人を想う情熱は、実現に向けて突き進む『原動力』

気仙支部では、大震災当時支部長であられた田村満氏が中心となり、経営者数名が、自社の再建だけでなく、陸前高田一帯における中長期的な仕事と環境づくりの必要性を被災後に実感。内閣府のインターンシップ事業を通じて出会った、東京のコンサルティング会社ソシオエンジン・アソシエイツのメンバーらとともに、復興支援期を越えて人々を支える仕事づくりを目的とする「なつかしい未来創造株式会社」を、2011年10月に設立しました。すべてを失ってしまった中から、どのようにして関係を紡ぎ、ここまで復興を遂げてきたのか。そしてどうして展望まで掲げられたのかを今回初めて、この10年を振り返る機会として、特別の時間を戴きました。(内容については次号で紹介予定)

参加された皆さんからは、「地域や人を想う情熱は、実現に向けて突き進む『原動力』となり、未来のビジョンを創造して描き語ることで、周囲に勇気や感動を与えられるのだと感じた」「困難な状況でも辛抱強く努力を続けなければ必ずチャンスは来る」などの感想があり、総会、記念講演を含め2時間半という短時間でしたが、あらためて同友会運動とこれまでの歩みを確認し、今後の展望と可能性を実感できた時間となりました。



支部地区「ほつ」とライン

盛岡支部・紫波花巻支部

合同4月例会

「私は」から「私達は」へ大きく変革

4月21日（水）、岩手同友会会議室にて盛岡支部・紫波花巻支部合同で4月例会が行われました。

報告者に、特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館理事長 高館美保子氏を迎え「組織を活性化するワークショップ「エンゲージメント」をテーマに報告をして頂きました。



高館氏は、現在までの事業内容を振り返りながら、事業転機となったターニングポイントで必ず自分や家族の出来事が関係していることに気付きます。これまでは若者支援等での委託事業が主でしたが、単年度事業の雇用利用の安定が図れず、働いている社員にとっても次年度への継続雇用への不安がありました。

また、自分に「もしも」の事があつた場合、家族が障がい者になった場合を考え、事業内容を大きく変革する決断をします。その内容の主なもの、主語を「私は」から「私達は」にすること、社員との情報の共有、毎月の定期個人面談、そして社員一人ひとりの強みを引き出し、丁寧に権限の移譲を行うなど、大きな改革でした。

現在は、支援者研修・企業研修・Book energy・がん患者就労推進支援プロジェクト

トなどへと活動が広がり、年間の売上も毎年一千万円ずつ増えています。また病氣と闘う子どもたちに本の贈り物をする活動の中で、売上の一部を寄付もしています。

高館氏の逞しい経営姿勢、素晴らしい取り組みのご報告をお聞きし、普段より賑やかな2支部の合同例会は、学びの多い貴重な時間となりました。（文）(株)幸呼来Japan 石頭悦

気仙支部

4月幹事会・ミニ報告会

女性ならではのきめ細やかな社風づくり

気仙支部幹事会が4月26日（月）キャッセン大船渡で行われました。熊谷支部長より今後の方針として「今年度はZoomを活用したハイブリット例会を開始し、会員がいつでも声を出せる環境を整えていきたいと思います」との提案がありました。

その後、岩手県南運輸(株)の志田宏美氏よりミニ報告をいただきました。岩手県南運輸は大手セメント会社の仕事を

請負う長距離輸送を行っています。ドライブレコーダーやGPSを使用し事故や渋滞による道路状況を把握しいち早くドライバーに伝え円滑な運行をサポートしています。また、社員の健康管理、ドライバーの身だしなみや、アルバイトと仕事の線引きをすることで運送会社のイメージを変革させ、女性ならではのきめ細やかな規律ある社風づくりに取り組み日々奮起しています。という報告でした。（文）(有)橋勝商店 橋詰真司



5月幹事会・例会

命をテーマにした環境配慮型農業の実践へ

5月7日（金）気仙支部5月幹事会と例会が4月に新し

くオープンした「ワタミオーガニックランド」で開催されました。

4月に引き続き幹事会では、気仙支部の次年度へ向けの方針が検討されました。震災前、会員100名までであったところまで来ていた。今年こそ実現しようとして、早速ゲストのリストアップをスタートしました。また今年度は支部としてSDGsの学習会を取入れる例会も行うことも決定、ほかにも支部の活性化へ向けてそれぞれ意見を出し合いました。「支部活動における役割の重要性が問われている、まさに今年度のスローガン『一人ひとりの顔の見える支部づくり』を徹底していこう」と、あらためて強い決意を確認した幹事会となりました。

その後、5月例会として(株)ワタミオーガニック代表取締役の小出浩平氏よりご報告いただきました。ワタミオーガニックランドは今後20年かけて命をテーマにした環境配慮型農業の実践をめざしていきます。まずは安心して食事を

楽しんでいただきたい。との

思いと土づくりから始め、こ

こにすれば有機農業が学べ、

人々が多く集積することがで

きるようにしていくことを

狙った、戦略的テーマパーク

です。土づくりには手間もコ

ストもかかりますし、安定生

産など課題がたくさんありま

す。「それでも未来を見据え、

生きている土と向き合う栽培

方法を確立したい。そのため

にいま挑戦を続けています。」

この小出氏からの熱意のこ

もった報告でした。

(文) 橋勝商店 橋詰真司



県南支部

5月幹事会・情報交換会

新分野開拓へ向けた挑戦、

着々と

県南支部では5月13日、オ

ンラインで幹事会・情報交換
会が開催されました。久々の
開催ということもあり、沢山の
新鮮な情報が交わされました。

新たに発売を開始した人参
ドレッシングが予想以上に好
調で、売れ切れるほどの人気
商品になっていることや、こ
のコロナ禍の中でも新たに社
員を採用し出店に挑戦してい
る報告、これまで製造業の市
場に強かった自社の商材を使
い、医療分野の開拓に挑んで
いることなど、果敢もり状態
が続く中で果敢に新市場に向
き合っている姿が報告されま
した。

また次年度へ向けては、若
い後継者を地域で巻き込んで
いこうとの意欲的な話もあり
、早速6月の支部総会・例
会では岩手が全国に先駆けて
取り組んで来たエネルギーシ
フト（ヴェンデ）をテーマに
声をかけて学びあうことを決
定。大変な環境の中でも激動
を味方に付けていこうと、次
への展望を掲げた情報交換会
となりました。

新 会 員 紹 介

支部地区	盛岡支部
氏 名	米谷 享子
企 業 名	(株) M ファーム
役 職 名	代表取締役
住 所	〒020-0668 滝沢市鶴飼狐洞 1-223
T E L	019-618-2490
F A X	019-618-2490
事業概要	園芸、農産物の販売



支部地区	県南支部
氏 名	及川 明彦
企 業 名	(株) N・SNS
役 職 名	代表取締役社長
住 所	〒024-0023 北上市里分 7-57
T E L	0197-65-7211
F A X	0197-65-7215
事業概要	警備事業・機械警備・施設整備・防犯カ メラシステム通信事業 ビジネスホン・ デジタル複合機・プリンター



支部地区	紫波花巻支部
氏 名	藤岡 裕子
企 業 名	(一社) カダル
役 職 名	代表理事
住 所	〒028-3618 紫波郡矢巾町駅東 1丁目 1-1
T E L	019-601-2871
F A X	019-601-2872
事業概要	まちづくりに関わる勉強会等の運営と、 矢巾町地方創生センターの管理運営



支部地区	盛岡支部
氏 名	中村 寛
企 業 名	(有) 魚藤
役 職 名	代表取締役
住 所	〒028-3622 紫波郡矢巾町 上矢次 7-36-1
T E L	019-611-1050
F A X	019-611-1050
事業概要	魚介類の販売



支部地区	盛岡支部
氏 名	柴田 容子
企 業 名	(有) 美藤 / MIFUJI
役 職 名	代表取締役
住 所	〒020-0066 盛岡市上田 3-7-26
T E L	019-653-1421
F A X	019-623-0003
事業概要	仕出し料理・ケータリングサービス



支部地区	県北支部
氏 名	馬場 真樹子
企 業 名	浄法寺うるしば(同)
役 職 名	業務執行役員
住 所	〒028-6941 二戸市浄法寺町 御山中前田 23-6
T E L	0195-38-2511
F A X	0195-38-2610
事業概要	漆器製造販売(滴生舎)、漆器や浄法寺 漆に関する情報発信



2021 新委員長紹介

2021年度、経営労働委員会、共同求人委員会、組織委員会において新しく委員長に選ばれた3名の方から今年度の抱負を含めご紹介させていただきます。

組織委員会



(有)いわてにつか
コミュニティ
企画
代表取締役
吉田 ひさ子氏

今年度、組織委員長を拝命いたしました。会員拡大を通して、県内全域での新しい支部、地区設立の可能性を探りながら実現へ向けていきたいと思ひます。みなさんで同友会の辞書の1ページを増やしていきましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。

共同求人委員会



(株)仙北造園
代表取締役
佐藤 康之氏

2年ぶりでのたび、再度共同求人委員長になりました。雇用情勢は大きく変わっても、人材の確保と育成は企業の重要課題であることに変わりはありません。委員会では採用できる企業づくりを目指し、行政、学校、地域を巻き込みながら活動して参りたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

経営労働委員会



杜陵テクノ(株)
代表取締役
川村 武司氏

今年度、経営労働委員長になりました。大変重責で改めて気を引き締めていかなければと思ひます。企業経営において経営指針の確立と実践は最重要課題です。労使見解をもとに経営指針の成文化とその実践を主に進める取り組みをしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

2021 各支部地区新広報委員長紹介

広報委員長



気仙支部

(有)橋勝商店 代表取締役
橋詰 真司氏

この度、気仙支部の広報委員を拝命いたしました。支部活動の中で、例会や幹事会に参加しながら「何を伝えたいのか」自分なりに常に考えて報告文を作成しています。今後もよろしくお願いいたします。



盛岡支部

(株)杜陵工業 代表取締役
瓜谷 昌子氏

広報を通し支部活動が盛り上がり、組織の活性化につながるようにしていければと思ひます。また、広報委員をすることで自社の発信の勉強にもなればと考えています。



紫波環境(株)
代表取締役
瀬川 峰雄氏

広報委員会は共に学び育つ理念をもとに、交流の輪、感動の輪をつくり、広報活動を進めます。各支部地区の広報委員の皆さんと新鮮で身近で会員それぞれの顔の見える情報と、同友会運動を内外に伝えるためにも、一緒に作り上げて参りたいと思っております。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。



遠野釜石地区

農事組合法人
宮守川上流生産組合
副組合長
桶田 陽子氏

遠野釜石地区は小人数での活動ですが、その分中味濃く、一人ひとりに寄り添う関わり深い内容で皆さんにお伝えしていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



県南支部

(株)ネット保険ショップ
代表取締役
松倉 忠氏

今回、新しく県南支部の広報委員になりました。各支部地区の皆さんと、色々と交流しながら、より多くの情報をお伝えしていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



紫波花巻支部

社会労務士法人
ワイズコンサルタンツ
代表社員
山本 正人氏

紫波花巻支部では、数年前から幹事中心に支部例会記事を機関誌に寄せておりますが、更に新しい広報委員の皆さんと情報交換しながら頑張っていきたいと思ひます。



県北支部

(株)交通電機商事
専務取締役
金澤 康成氏

今年度から県北支部の広報委員になりました。まだ入会し2年目ですが、支部の特色を皆様にお伝えしながら、一人でも多くの会員と交流ができるよう広報活動を行っていきたいと思ひます。

よろしくお願いいたします。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライングブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライングブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのコーディネーター、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

利益ではなく、信頼を最大化
することで得られるもの

私の住む街に、広葉樹専門
の製材工場があります。年間

材量かなりのストックがあります。速さや効率率がもてはやされる現代の市場においては、大きな挑戦だとも言えます。

2万立米くらいを製材しています。広葉樹の多くは、その組織構造から、水が抜けにくく、製材したあと、数年間ゆっくりと自然乾燥させなければなりません。樹種や製材した板の太さにもよりますが、写真にあるような7cmくらいの厚みのオーク(ミズナラ)材であれば5年前後の期間が必要

です。針葉樹の建築用材であれば、人工乾燥機を使って数日から2週間程度で乾燥され販売されていますが、広葉樹の場合は、急速に水抜きをしないと材の品質が大きく損なわれるため、現在でも数年の自然乾燥が必須なのです。これは、製材工場にとっては、2年から7年という比較的長い期間、流動資産を大量に抱えて商売をするという、非常にリスクの大きい経営です。製材工場には絶えず2年の製

材量かなりのストックがあります。速さや効率率がもてはやされる現代の市場においては、大きな挑戦だとも言えます。

しかし、製材工場の経営者には、特別な気負いはなく、昔からそうだから、自然のマテリアルの性質上、それしかやる方法がないからやっているだけです。スピーディな市場の中でのスロービジネスです。ただそれを可能にしているのは、製材工場の力だけではありません。

まず、多種多様な原木を育て、年々、安定して供給することができると、地域の森林所有者が必要で、州有林や自治体有林や私有林です。森林所有者は、樹木という数十年以上の流動資産を育て利用します。高級な家具やフローリングに使われる大きなオークであれば、2000年から3000年です。広葉樹製材工場の流動資産の所持期間が長いと言いましたが、それからすると森林業の流動資産は「超」長

いものです。300年と言うと10世代くらいです。絶えず次の世代のことを想って資産を維持し育てながら節度ある利用をしていくという、世代間の契約がないと成り立ちません。また、成長が速く育て易い針葉樹の一斉樹林の拡大という、とりわけ産業革命以来の人間の工業的思考の実践がもてはやされた中で、多様な樹種のある森を育ててきた人たちがいるから、私の街の広葉樹製材工場も長年経営できるのです。

また、木材は一本の丸太でも、肉のように多様な部位があり、楽器や工芸品、家具や建具、梱包材や製糸用パルプ、薪やチップと、多様な用途があります。それにオークやブナ、カエデやトネリコ、サクラやクリという多様な個性を持った樹種が相乗されます。広葉樹製材工場は、多様な売り先を抱えていなければなりません。丸太の中でも節が全くなく柾目で綺麗な最高級の上ヒレや上ロースにあたる部

位を高く買ってくれる地元のオルガン工房だけでは不十分です。普通のロースもカルビを買ってくれる家具建具工房や、多品目を揃えている卸売業者、ワインの樽をつくる工房、ロクロで木製の器や皿、工芸品を作る工房、ハツやレバーにあたる製材端材を買ってくれる製糸工場やパーティキュルボード工場などの多様なお客さんがいて、初めて森から仕入れる多様な部位からなる「生き物」である丸太を製材する業が成り立ちます。

多様な原木が森から製材工場を通して多様な最終加工業者へ。それによって、数世代に渡って使える重厚な木製家具や、教会やコンサートホールで人々に数百年の間、喜びや感動を与え続けるパイプオルガンが製作され、土地の香りとエネルギーを濃縮したかどうか酒にしみと丸みがブレンドされます。均質化による部分効率化ではなく、多様性を生かすことによる様々な付加価値の創

出で、競争ではなく協力で、利益ではなく信頼を最大化することで得られる生活のクオリティです。

著書「多様性～人と森のサステイナブルな関係」池田憲昭

《多様性》をキーワードに、「森づくり」から「地域木材クラスター」「モノづくりと人づくり」「森のレジャー」「森の幼稚園」さらには最新の脳神経生物学に基づく「文明論」まで、軽やかな文章で、わかりやすく多面的に解説。科学的なデータや知見を踏まえた専門書であると同時に、「多様性」に魅了されてきた筆者の経験や思いがベースにある心に響くエッセイ。コロナ禍によって、思いもよらず「さなぎ」のような静かな生活を強いられ、筆者が、過去振り返り、今後の生き方を考えるために、子供たちの未来のために書いた。「森の国」ドイツから「森林大国」日本の未来へ送る多様性のメロディ。
<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B091F75KD3>
※ペーパー版のご予約は岩手同友会までどうぞ



著書「多様性～人と森のサステイナブルな関係」池田憲昭

私たちがエネルギーシフト(ヴェンデ)で 実現したいものは何か

どうやって持続可能な
地域を守っていくか

岩手同友会のエネルギーシフト(ヴェンデ)研究会は、創立から7年が過ぎました。今回は私たちの研究会の考え方の源泉ともなっているオー

ストリアのフォーアールベルク・エネルギー研究所をご紹介します。数度の訪問の後、岩手同友会では、この研究所の取り組みを紹介するパンフレットをスイス在住のジャーナリスト 滝川薫氏と日本語

と捉えられがちです。それでも愚直に発信し続けることができたのは、実際に欧州の50カ所を超える山あいの小さな村々の役場や企業を訪れ五感で体感し、「岩手でのエネルギーと食料の100パーセント域内循環を我われの手で実現したい」との想いが募ったからでした。

3000部ほど発行、好評を得ました。

オーストリアの、とある人口1000人に満たない小さな山村では、人口減少、少子高齢現象が急激に進む中で、日本と同じく次代を担う20代の若手後継者たちが、地域に残る同世代の仲間と資源とエネルギーの循環を通してどうやって新たな事業を地域に創出し暮らしを守っていくかを、夜な夜な車座で真剣に語り合う姿がありました。

エネルギーシフト(ヴェンデ)研究会

の岩手での学習会はこの4月で100回を超えました。欧州での6回の視察日数を加えると、7年で重ねてきた時間は数えきれません。しかしながら地球環境の危機がこれだけ迫った中でも、未だ「エネルギーシフト」は「電気や燃料のこと、自分とは遠い話」、

掲げる目標は壮大に、住民には寄り添い続ける

添い一緒に考えてくれるパートナーとしての役割も担っています。

その根幹にあるのが、2050年までに域内で消費するエネルギーの同量の再生可能



そんな私たちの取り組みの支えとなってきたのが、何度も訪れているオーストリア、フォーアールベルク州のエネルギー研究所です。設立から30年が経つこの研究所は、州内の建設資材の性能登録制度を生み、全建築関連事業所の登録の実質義務化、各自治体の環境エネルギー分野の取り組みへの評価を公表するなどシンクタンクとしての役割と、同時に住民にはエネルギー家計簿の記入の仕方や補助金申請の書き方などをアドバイスするなど、住民に寄り





エネルギーを生産する「エネルギー自立2050」というビジョンです。フォーアール

ベルク州議会に議員を輩出するすべての議員が賛同。

「孫に通じる対策（次世代への配慮）」とも呼ばれる、こうしたエネルギー自立フォーアールベルク・プログラムは、自治体の単なるエネルギーの施策ではありません。地域の日常生活のほぼすべてが、行政や企業、住民の枠を越えて繋がっています。目標は2050のエネルギー自立。そこから逆算して、2030年にはどんな具体的な目標設定をするかバックキャストでめざす数値が示され、今どんな行動が必要かを提起しています。

「建物の省エネ改修率を○パーセント上げる」、「企業の生産能力の○パーセントの高効率化する」、「電気自動車の

具体的な数値化で見える行動のあり方

割合を○パーセントにする」：など建築、空間計画・交通、産業・手工業、再生可能エネルギーと日常生活に関わるすべての目標が数値化されているのです。

そしてその基準の背景に、4つの未来プロジェクトの考え方があります。1. エネルギー節約、2. 高効率化、3. 再生可能エネルギー、4. 研究、開発、教育。これを岩手同友会では後に、1. 省エネ、2. 小エネ、3. 生エネ（創エネ）、4. 商エネ、そしてその根幹を支える実践の学び合い（共育）と訳し岩手に持ち帰りました。今では私たち中小企業にとって、その取り組み順番も重要であることを掲げています。まさに私たちのバイブルともなっている考え方です。

エネルギーと食料の域内循環は可能か

2017年の第3回視察の最終日。この研究所で私たちのために時間をいただき、8時間連続でのワークショップを行いました。研究所の所長

は、30年前にたった2人で立ち上げた時の話から、共鳴者が全くないなかで積み上げてきたその歴史を、訥々とお話いただきました。まさに日常の同友会での体験報告そのものです。岩手同友会の視察は、普段の例会とまったく変わりません。その後も観光もせず全体討論で自分たちの日常に落とし込んでいきました。

当時、このワークショップで描いた、岩手で実現したい想いを、大きな模造紙八枚に掲げました。全員から止めどなく溢れ出てくる様々な意見やアイデア。訪れたその場所の空気の中でこそ描けた内容に、自分たちも驚いたほどでした。

岩手同友会は、この研究所の歴史と同じく、今年創立30周年を迎えます。そこで描いた8枚の模造紙に描いた未来展望が、今年度の岩手同友会のメインスローガン「岩手に人を育む大地を創造しよう」に生きています。



7年前の2014年、エネルギーシフト（ヴェンデ）研究会の創立時に掲げた目標は、「2050年の岩手の温室効果ガスゼロとエネルギー、食料の100パーセント域内自給」でした。声高に叫んでいた当時は誰もそんな時代が来ることを予見もしなかったでしょう。

なぜ中小企業憲章と密接なのか。ここまで愚直にエネルギーシフト（ヴェンデ）掲げる目的は何か、続くパンデミックの中で漸く少し伝わり始めたのかもしれませんが。

わが社の新商品

「まるまるにんじんどれっしんぐ」

（有）かさい農産では、自社栽培された人参のみを使用し、添加物をせずに作った「にんじんどれっしんぐ」2種類を新発売いたしました。

「まるまるにんじんどれっしんぐ」は、いつもかさい農産の野菜を使っておくださっている一関市花泉の飲食店「manmaruya」で相談して作っていただきました。食のプロならではの目線で、素材や色を活かしたシンプルな作りながら人参をたっぷり使用した贅沢なドレッシングです。もう一本の「ぐるぐるにんじんどれっしんぐ」は、一関市在住の野菜ソムリエVeggiefrutハーモニーの渡邊淳子さんに考案していただきました。味はヨーグルトやチーズ、卵黄が入り、お子さんや人参嫌いな方でも食べやすいドレッシングです。各1本 150ml入りで、税込み540円。かさい農産、一関コープコルザにて販売中。ぜひお試しください。



■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同志会ホームページをご利用下さい。www.iwate-doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com /mobile

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。

岩手日化サービス株式会社
盛岡市黒川22地割56番地
電話 019-696-5611

安心して喜ばせる地域づくり 共に繁栄する仲間づくり 社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社
〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
TEL: 019-675-2277 FAX: 019-675-2288

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531
テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 平金商店 TEL:019-624-2121

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ DokiDoki 2nd STREET

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 伊瀬 幸郎
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

オリジナルラベル ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自産ワイン 紫波 社名ロゴ 写真 OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自産ワイン 紫波 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

DOYU
I W A T E
同志会いわて
2021
Vol.150

2021年6月1日発行
発行／岩手県中小企業家同志会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F
TEL 019-626-4477
FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp